

1 自己評価及び外部評価結果

事業所概要 (事業所記入)

| | | | |
|---------|-------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1990100099 | | |
| 法人名 | 有限会社保泉商事 | | |
| 事業所名 | グループホーム花みずき | | |
| 所在地 | 甲府市上阿原町 5 26 番地 1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年12月12日 | 評価結果市町村受理日 | |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

評価機関概要 (評価機関記入)

| | | | |
|-------|------------------|--|--|
| 評価機関名 | 山梨県社会福祉協議会 | | |
| 所在地 | 甲府市北新 1 - 2 - 12 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年1月20日 | | |

事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)

当ホームは開設して3年あまりになる。体操、レクリエーション、カラオケ、DVD、ボランティアによる活動・外出・外食など、できるだけ入居者の楽しみとなるようなサービスを提供させていただいている。また、畑があるので春・夏・秋には希望される方は園芸や農作業をさせていただいている。

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点 (評価機関記入)

バイパスから少し入り近くにはぶどう畑もあり、静かな環境にある新しいホームである。建物は平屋で南を面しており、居室およびリビングには大きな窓から太陽の日が差し込んでいる。バルコニーもありお茶を楽しむ事もでき、野道を通る子どもたちの挨拶や、犬を散歩している方との会話を楽しむ事もできる。7軒の組に加入しており回覧板も回ってくるので地域の様子もわかる。グループホームの事や利用者の様子を理解して頂く為に、パンフレットを作り近所の方に配布している。また、防災の面に於いても運営推進会議を利用して、訓練前日にお知らせして地域の方々の参加を依頼している。

サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 該当するものに印 | 項目 | | 取り組みの成果 該当するものに印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目 23,24,25) | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の 2/3 くらい 3. 利用者の 1/3 くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目 9,10,19) | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の 2/3 くらいと 3. 家族の 1/3 くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目 18,38) | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目 2,20) | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目 38) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目 4) | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目 36,37) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目 11,12) | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の 2/3 くらいが 3. 職員の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目 49) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目 30,31) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の 2/3 くらいが 3. 家族等の 1/3 くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目 28) | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の 2/3 くらいが 3. 利用者の 1/3 くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム花みずき

セル内の改行は、(Altキ-)+ (

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 (実践状況) | | 外部評価 | |
|-----------------|-----|--|---|---|-------------------|--|
| | | | ユニット名 (グループホーム花みずき) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 理念に基づく運営 | | | | | | |
| 1 | (1) | 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域に根ざして、いつでも、どこでも、誰にでも」を理念に揚げ、地域のなかで温かい介護サービスを目指している。 | パンフレットに記載してホール内に掲示していたり、全体会議等で復唱して理念を共有している。運営推進会議で花みずき便りを配布したり、地域密着型の話をしている。近所の方の問い合わせや訪問に対応できるように話し合っている。 | | |
| 2 | (2) | 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域活動にもできるだけ参加している。また、時折、近隣の方が作物などを持ってこられる。 | 河川の掃除に年1回、参加している。組に加入しているので回覧板も回って来ている。運営推進会議に出て頂いている近所の方が白菜等の野菜を持ってきて、食事の時に食べたりしている。ベランダでお茶を飲んでいる時に通りがかりの子ども達に手を振ったり、声を掛けたりして交流を深めている。 | | |
| 3 | | 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している | お便りや訪問により理解や支援の方法を伝えている。 | | | |
| 4 | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回の割合で運営推進会議を開催し、サービスの向上に努めている。 | 地域包括支援センターの職員・民生委員・地域の方・傾聴ボランティアの方に参加して頂き、2か月に1回開催している。ホームの様子を地域の方に理解して頂くため、組7軒にパンフレットを作って配布している。民生委員の方から地域のハザードマップに登録について話があった。 | | |
| 5 | (4) | 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 開設前から市町村担当者にはよく相談にのっていただき、サービスの質の向上に取り組んでいる。 | 消防訓練の報告や相談等をしている。地域包括支援センター職員の紹介で、入居した利用者の様子を見に来て頂いたり、入居者が今後レベルが低下した時に何処がいいのか相談に載って頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 (実践状況) | | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|--|
| | | | ユニット名 (グループホーム花みずき) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 6 | (6) | 身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、研修等に参加したりして拘束しないケアを学び、取り組んでいる。 | スピーチロック等の身体拘束をしていない。玄関には施錠をしていないがボタンを押して解除してから出られるようになっている。身体拘束に対するマニュアルを作成したり、研修会に参加してケアに取り組んでいる。 | | |
| 7 | | 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 職場内において高齢者虐待について学び、職員一同、虐待防止に努めている。 | | | |
| 8 | | 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する制度の理解や勉強会などを随時開いて、必要性を話し合っている。 | | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書を提示・説明させていただき、不安な点・疑問点などその場でお聞きし、お話しさせていただいている。 | | | |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者の日々の生活の中で、苦情・不満はその都度、聞きながら対応させていただいている。家族の方にも、本人が言えない場合は代弁していただき対応している。 | 家族とは面会時や推進会議の中で聞くように対応している。入居者とはコミュニケーションの時に対応している。空調をこまめに調節して欲しい。」便秘ぎみなどで先生に相談して欲しい。」付き添いに行けないので対応をして欲しい。」等の意見がある。 | | |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月開催するミーティングにおいて、意見・要望・提案等を聞く機会を設け、職員の意見が反映できるようにホーム全体で取り組んでいる。 | 管理者またはケアマネジャーのどちらかが一日のホームの様子(利用者の様子・入居の問い合わせ・行事の様子)等をFAXで本社に送っている。本社にあげると、すぐにフィードバックがある。「食器乾燥機が壊れた、トイレの電気の調子が悪い」等の意見が出されている。 | | |
| 12 | | 就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 運営者は、管理者を通じ職員の個々の努力に対して、職員が働きやすいように取り組んでいる。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|--------------------------|----|---|--|------|-------------------|--|
| | | | ユニット名(グループホーム花みずき) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 13 | | 職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月開催するミーティングにおいて、勉強会も兼ねて行っている。研修会などにも、できる限り参加できる機会を作れるよう取り組んでいる。 | | | |
| 14 | | 同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域包括支援センターや他事業所との交流もあり、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | | | |
| 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談から入居までの中で、本人の不安な気持ち、要望等をよく聞き、安心して入居されるよう努めている。 | | | |
| 16 | | 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 相談の時点で、家族の方の不安または求めていることに対して、しっかり耳を傾け、事前見学等も行い、関係作りに努めている。 | | | |
| 17 | | 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人との面談、家族との面談、ケアマネジャーと相談し、支援方法を考え、他のサービスの紹介や提案などの対応に努めている。 | | | |
| 18 | | 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人ができること、昔から家事をなさったことを忘れないように、できることはしていただき楽しく1日を過ごしている。 | | | |
| 19 | | 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に、面談は入居者にとって1番の楽しみであり、頻繁に来ていただき、関係が薄くならないよう対応させていただいている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|---------------------------------|------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | ユニット名(グループホーム花みずき) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 20 | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている | 入居者の友達(従兄弟たちもよく面会に来られる。居室でお茶を飲みながら過ごしていた。帰られる際も、また、来ていただけるようお願いしている。 | 郵便局や県庁に勤めていた利用者には、その近くをドライブするなど支援している。2か月に1回、行きつけの美容院を利用している利用者もいる。仏画の写真や家族の写真を部屋に飾っている利用者もあり、また、友達が面会に来て好きな食べ物を一緒に居室で食べる利用者もいる。 | | |
| 21 | | 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | スタッフが間に入り、入居者同士がよい関係が築けるように努めている。 | | | |
| 22 | | 関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他の施設へ入所された方、また入院された方に対しては、スタッフが事業所を訪問し、家族の方にはその後の様子など電話させてもらい関係を保っている。 | | | |
| その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | | |
| 23 | (9) | 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毎日の生活の中でも、小さな変化を逃さず、その人らしい生活を送ることができるように援助させていただいている。 | センター方式のアセスメント表を利用している。日常生活の中で思いや意向を把握している。植木の好きな利用者の水やりの写真を家族に送ったり、人前で話をするのが得意の利用者は絵の描き方の説明をして頂くように支援している。 | | |
| 24 | | これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に、本人宅に訪問または病院に訪問し、本人・家族の方・関係者などから聴き取るようにしている。入居以後も本人・家族の方々にはその都度、お訊きしている。 | | | |
| 25 | | 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 入居者一人ひとりの生活のリズムは全員違いがある。一人ひとりの生活のリズムを把握するよう努めている。 | | | |
| 26 | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 入居者や家族の方々には、その方の生活面でのお話しやその方の様子を聞き、ホームでのケアのあり方を考えさせていただいている。それぞれの意見や希望を反映した介護計画を作成している。 | 月1回のケア会議で話し合いを行っている。家族が面会に来た時に希望等を伺い、変化があれば見直しを行い現状に合った介護計画を作成している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | ユニット名(グループホーム花みずき) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 27 | | 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践 結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録を通して、その方の体調の変化・低下状況などを観察し、介護計画の見直しにつなげている。 | | | |
| 28 | | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 事業所の機能性は、利用者の変化に伴ってその都度、整えている。設備等の不足の点があれば、補いながら柔軟な対応をしている。 | | | |
| 29 | | 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 民生委員 近隣の方々 ボランティア 消防等と協力しながら支援している。 | | | |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月2度の往診時にその都度、指示をいただいている。ホームで実施可能な支援を主治医と相談・連携をとっている。 | 主治医は石原医院に変更している。2週間に1回、往診があり、変化時には受診している。入院した方がよい利用者には紹介状を書いてもらっている。基本的には家族の付き添いであるが、対応できない時には職員が同行し支援している。 | | |
| 31 | | 看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師資格を有する職員を夜間に置き、健康を管理し、異常の早期発見に努めている。 | | | |
| 32 | | 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院先・受診先を訪問し、病院関係者との情報共有に努めている。 | | | |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状況に応じて主治医と連携し、家族・本人等と話し合いを行っている。そして方針を決め、全職員にもその旨を伝え共有している。 | 看取りはしていないが対応することについて同意を頂いている。夜間の看護体制をとっていないので難しいところもある。家族の希望で入院になる時もある。入居時、特別養護老人ホームに申し込みをして頂き、順番が来て入所される利用者もいる。最終的な判断は連絡が行った時に家族に判断して頂いている。 | | |
| 34 | | 急変や事故発生時の備え | 入居者の事故・急変時への備えとして、職員 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 (実践状況) | | 外部評価 | |
|-------------------------------|------|--|---|--|------|-------------------|
| | | | ユニット名 (グループホーム花みずき) | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| | | 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 一同、応急手当・対応等の訓練は行っている。職員間で勉強会も開いている。 | | | |
| 35 | (13) | 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 入居者・スタッフ一同、消防訓練を行っている。初期消火の訓練・避難誘導の訓練等を行っている。 | 年2回、運営推進会議のときに地域の方にも参加をして頂き消防訓練を開催している。防災頭巾をかぶり避難をしたり、シートを利用して担架にして利用者運ぶ訓練をしている。訓練前日には近所の方々に連絡して参加して頂けるように依頼している。カンパンや水の備蓄がある。 | | |
| .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | | |
| 36 | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者のいまに至るまでの生活を尊重し、人生の先輩であることを、職員に日頃から話し対応するようにしている。また、その方のプライバシーを損ねるような対応を行わないよう皆で話し合っている。 | 人生の先輩として人格を傷付けないように注意して接している。トイレのドアは必ず閉め、入浴は一人ひとりで入れるように対応をしている。名前は苗字で呼び言葉かけに注意し、大声にならないように対応している。 | | |
| 37 | | 利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | その方の状況に合わせた介護して、自分から希望を表せるように働きかけを行うと共に、その方に分かり易い説明を行い、自分で決めたり、納得できるような支援をしている。 | | | |
| 38 | | 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の生活の中で、その人らしい生活と同時に、その人らしい考えで過ごしていただけるように努めている。 | | | |
| 39 | | 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者の希望の日に美容院の方に来ていただいている。日々の生活の中では本人が身につけている化粧道具のある方もいる。顔につけるクリームのみの方もいる。希望に沿った支援をしている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|--|
| | | | ユニット名(グループホーム花みずき) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 40 | (15) | 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者の希望のメニューも取り入れ、1人ひとりの好みも活かしている。 | 希望を聞いてメニューに取り入れている。月曜日～土曜日には朝昼晩、宅配弁当を利用しているが、ご飯と味噌汁はホームで作っている。利用者の力に応じて配膳下膳等をして頂いている。2か月に1回外食に行ったり、誕生日にはお寿司を食べたりして支援している。 | | |
| 41 | | 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者の好みの飲み物はいつも用意させていただき、本人の希望により飲まれている。また、栄養バランス等にも気をつけている。 | | | |
| 42 | | 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後の口腔ケアは、スタッフの声かけ誘導で行っている。義歯の方も多く口腔内の清潔に心がけている。 | | | |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 入居者のほとんどの方はリハビリパンツとパットを使用している。スタッフがその方の排泄の間隔を把握して、トイレ誘導を行っている。 | 入居者のほとんどの方がリハビリパンツを使用しており、3時間置き位に排泄チェック表にて定時のトイレ誘導を行っている。 | | |
| 44 | | 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | その入居者に合う便秘の予防と対応を行っている。薬を飲まれている方もいる。食事、運動にも気をつけている。 | | | |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴は楽しみの一つであるので、入浴は毎日行い、1日～2日おきの入浴をしている。1人当たり30分くらいの入浴時間としている。拒む方には工夫して声かけを行っている。一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。 | 午後の暖かい時間に1日に3～4人、週に2～3回位入浴するように、利用者一人ひとりに合った支援を行っている。拒否者には「氷虫の薬を塗りますから来て下さい」と声掛けを工夫して支援している。 | | |
| 46 | | 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の生活の中で動く(活動する)ように促し、生活のリズムを整えていただき、体調に合わせた体力作りに努め、夜間はゆっくりと休んでいただいている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 (実践状況) | | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|--|
| | | | ユニット名 (グループホーム花みずき) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 47 | | 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お薬手帳 処方箋のコピーをファイルに整理し、職員は全員の薬に対して把握し、服薬時本人に手渡し、口に入れて飲み切るまで確認することを必ず行っている。 | | | |
| 48 | | 役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 女性の方は自然と決まりかけている。得意分野を發揮してもらえるようお願いしている。 | | | |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 入居者の体調や天気の良い日は外出や外食を行っている。 | 春や秋は週1回位フルーツ公園に出掛けている。春には小瀬の公園に桜を見に行ったり、歌舞伎公園に遊びに行く事もある。ホームの周りを歩いたり、畑に行ったりしている。 | 食事や買物での外出は少ないけれど、日々の生活の中で、ちょっとした外出が出来るような支援を期待したい。 | |
| 50 | | お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族の方から月に決められた金額をお預かりさせていただいているが、入居者自身にはお金の所持はしていただいている。 | | | |
| 51 | | 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居者の家族の方や友達より電話がある方が気分よく話ができるように、また、他の入居者に聞こえないように工夫している。 | | | |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激 (音、光、色、広さ、温度など) が無いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間は、入居者にとって不快な場にならないように注意している。全員が集まるホールは花などで装飾し、入居者の家族とも気軽に話ができる居心地の良い場所にしている。 | 廊下・居間・食堂と快適な温度に保たれ、天井にはファンがあり、暖かい空気が巡回するようになっている。食卓は円卓になっており椅子にはひじ掛けもついている。居間には大きなテレビや長いソファが置かれ、居心地よく過ごせる環境作りがされている。 | | |
| 53 | | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共有空間 (玄関ホールその他の共同空間) は、ソファを設置し、入居者の「お話の場」と良いかと考えている。 | | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価(実践状況) | | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|--|
| | | | ユニット名(グループホーム花みずき) | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 54 | Q0) | 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者は今まで使い慣れた家具(タンス)や椅子、テーブルを持ち込まれて、今までの生活と同じように落ち着いて生活できるようにしている。 | 居室は南向きにあり、太陽の光がさんさんと差し込んでいる。タンス・テレビ・小物などを持ち込んでいる利用者もあり、今までの生活に近い雰囲気作りがされている。洋室と和室があり自由に選ぶ事ができ、居心地よく過ごせる工夫がされている。 | | |
| 55 | | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」わかることを活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者の使用する洗面台、トイレなどは安全に使いやすくしてあり、自立した生活ができるよう配慮させていただいている。入浴場も介助しながらもゆっくり入浴できる工夫をしている。 | | | |